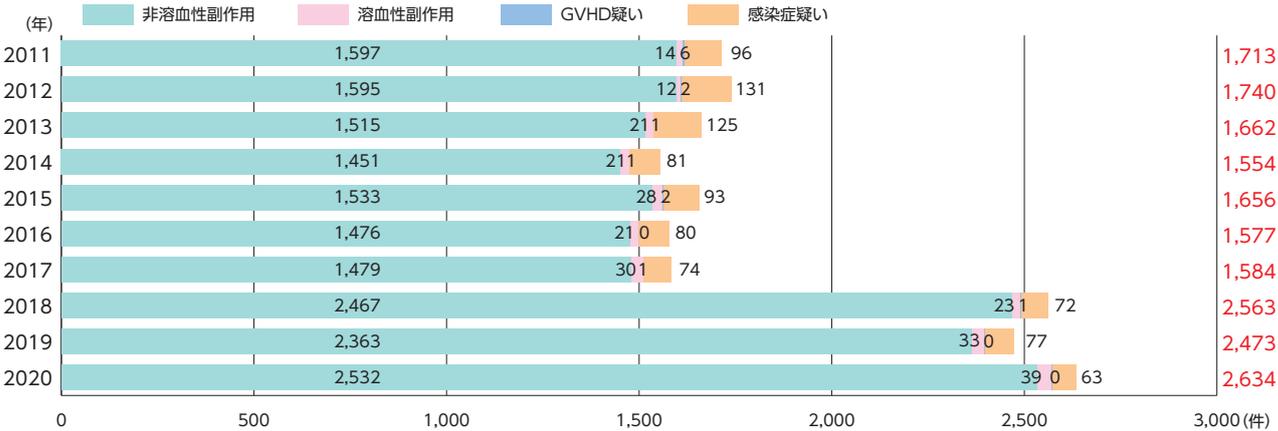


## 赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用 —2020年—

2020年の1年間に、医療機関において輸血による副作用・感染症が疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、**最も報告数の多い非溶血性輸血副作用**についてお知らせします。

### 副作用・感染症報告数の推移及び副作用の種類 (輸血との関連性なしとされた症例も含まれます。)



2020年の非溶血性輸血副作用報告数は2,532件であり、輸血による副作用・感染症報告数2,634件の96.1%を占めていました。平成30年(2018年)1月から輸血副作用・感染症の調査方法を変更したことにより、報告件数は増加しています。

### 非溶血性輸血副作用 (2020年)

**◆非溶血性輸血副作用の報告件数について**

「アレルギー」が最も多く1,360件(54%)報告されています。「重症アレルギー」を含め、副作用報告の約2/3がアレルギーでした。呼吸困難には、TRALI(p-TRALIを含む)、TACOが含まれます。

副作用の種類	報告数	割合
アレルギー	1,360	53.7%
重症アレルギー	332	13.1%
発熱	305	12.0%
呼吸困難	191	7.5%
血圧低下	97	3.8%
その他	247	9.8%
<b>合計</b>	<b>2,532</b>	<b>100%</b>

**◆使用製剤の種類及び製剤毎の副作用(症例別)報告内訳**

赤血球製剤または血小板製剤による副作用が多く報告されています。赤血球製剤では他製剤に比べて発熱と呼吸困難が、血漿製剤、血小板製剤ではアレルギー、重症アレルギーの報告割合が特に多くなっています。

**製剤別の副作用割合 (左の棒グラフ):**

製剤	アレルギー	重症アレルギー	発熱	呼吸困難	血圧低下	その他
RBC	29.7%	7.5%	26.9%	12.3%	7.2%	16.4%
PC	66.4%	21.5%	1.1%	3.0%	2.4%	5.6%
FFP	67.0%	13.3%	6.3%	4.1%	2.1%	7.2%

**製剤別の報告数 (右の円グラフ):**

製剤	報告数	割合
RBC	852	33.6%
PC	1,004	39.7%
FFP	461	18.2%
複合	199	7.9%
WPC	9	0.4%
WRC	7	0.3%

## ◆使用製剤・症状別副作用報告数（対供給本数に対する頻度）（2020年）

製剤	血小板製剤*		赤血球製剤*		血漿製剤	
供給本数	807,173		3,243,134		868,416	
アレルギー	673件	(約1/1,200)	253件	(約1/13,000)	306件	(約1/2,800)
重症アレルギー	134件	(約1/6,000)	64件	(約1/51,000)	99件	(約1/8,800)
発熱	63件	(約1/13,000)	229件	(約1/14,000)	5件	(約1/170,000)
血圧低下	21件	(約1/38,000)	61件	(約1/53,000)	11件	(約1/79,000)
呼吸困難	27件	(約1/30,000)	50件	(約1/65,000)	8件	(約1/110,000)
心原性肺水腫	10件	(約1/81,000)	30件	(約1/110,000)	3件	(約1/290,000)
TRALI (p-TRALIを含む)	1件	(約1/810,000)	3件	(約1/1,100,000)	1件	(約1/870,000)
TACO	3件	(約1/270,000)	22件	(約1/150,000)	2件	(約1/430,000)
その他	72件	(約1/11,000)	140件	(約1/23,000)	26件	(約1/33,000)
合計	1,004件	(約1/800)	852件	(約1/3,800)	461件	(約1/1,900)

上記製剤には、放射線照射製剤及び未照射製剤の両方が含まれます。また2種類以上の製剤が使用された症例は除外しました。

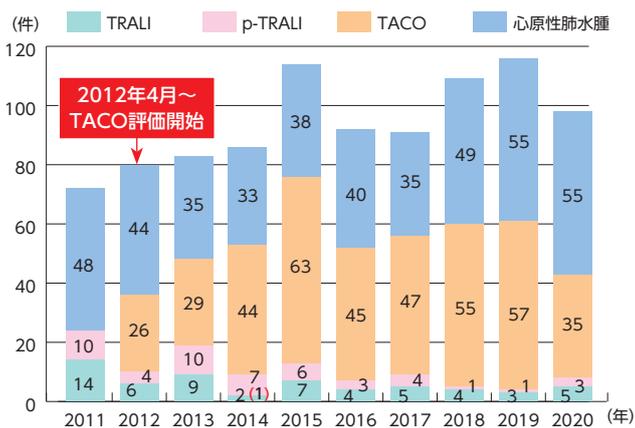
※洗浄赤血球製剤、解凍赤血球製剤、合成血液、洗浄血小板製剤（HLA適合製剤を含む）の使用症例は除外しました。

## ◆TRALI、TACO症例の推移（2011年～2020年）

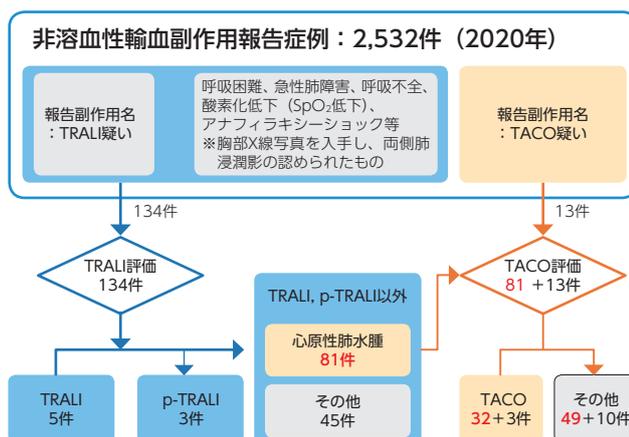
呼吸困難を呈した輸血副作用症例のうち、輸血関連急性肺障害（TRALI）または輸血関連循環過負荷（TACO）が疑われた症例について、診断基準（TACOについては日赤評価基準）に基づいて評価した件数です。

2021年4月報告分からTRALI及びTACOの評価基準を変更しております。下の図表に記載された件数は、変更前の評価基準によるものです。

変更後の評価基準の詳細については「日本赤十字社におけるTRALI及びTACOの評価基準変更のお知らせ（令和3年3月）」[https://www.jrc.or.jp/mr/product/information/pdf/info\\_202103.pdf](https://www.jrc.or.jp/mr/product/information/pdf/info_202103.pdf)をご参照ください。



※（ ）：TRALI/p-TRALIによる死亡が否定できない症例



2020年はTRALI疑いとして報告された症例及び症状からTRALIが疑われ、TRALI評価対象とした症例報告134件のうち、TRALI(またはp-TRALI)と評価された症例報告は8件(6.0%)でした。一方、TRALI評価対象症例のうち最終的にTACOと評価された症例報告が32件(23.9%)ありました。

## ◆TRALI、TACOの評価に必要な情報について

TRALI、TACOの評価を実施するにあたり、右記の情報について提供をお願いします。

胸部画像については確認を必須としておりますので、ご提供いただけない場合は評価を行うことが出来ません。

- 輸血12時間前から発症後呼吸困難が改善するまでの以下の情報  
副作用等の経過、バイタルサイン、血球計算（白血球百分率を含む）、呼吸状態（血液ガス、酸素飽和度など）
- 副作用発生前後の胸部画像（X線、CTなど）

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。

また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

## 輸血情報 2109-175

〈発行元〉

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課  
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号  
※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター  
医薬情報担当者へお願いします。



日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト

製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報 検索

スマートフォン・タブレットにも対応しています。

